



栃木県埋蔵文化財 センターだより

2006
10月

かまかいどう



▲足利市菅田古墳群発掘調査の様子（丘陵上の外護列石をもつ古墳群を東斜面下より仰ぐ。P6に関連記事があります。）

特集

古墳時代の衣食住

2006年 発掘現場レポート

菅田古墳群現地説明会

栃木県埋蔵文化財センターでの研修を通して
発掘調査現場の安全対策-菅田古墳群での実践-



▲ボクはヤヨ坊
埋文センターのマスコットだよ。

特集

古墳時代



旧石器時代から古代(奈良・平安時代)にかけての衣・食・住に関する歴史をシリーズで紹介します。

「古墳時代」とは、文字通り各地に古墳が築かれていた時代のことです。3世紀代から7世紀代まで続きました。「古墳」といえば、巨大な前方後円墳や、豪華な副葬品、埴輪などを思い浮かべることができますが、実際の暮らしの様子は、意外と印象がうすいのではないのでしょうか。最近の発掘調査によって、当時の生活の実態が少しずつわかってきました。前々号で古墳時代の「住」について紹介しましたが、今回は「衣」と「食」についてです。



古墳時代の「衣」

昔の人たちは何を着ていたか、それは大きなナゾです。今回は、人物埴輪から「わかること」、「わからないこと」を紹介しましょう。

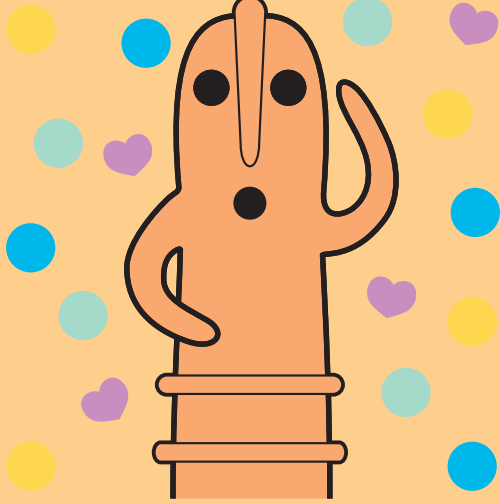
埋文センターで発掘した琴平塚古墳6号墳からも、武人埴輪、女人像が出土しています。

埴輪の人物には、この二人以外に、正装した偉い人、^{みこ}巫女、琴を弾く人、帽子を被る人をはじめ、お相撲さんまで登場します。埋文センターでは、埴輪をもとに、当時の衣装を復元しました。左は「^{おご}豪族」、右は「^{まじ}巫女」です。

(貸し出しもしているので、着てみてね。)



◀^{あゆい}足結(膝下の紐)のアップ。豪族のと見比べてみて!



髪を^{みずら}美豆良に結び、ズボンの豪族、たすきをかけスカート^の巫女。でも、このような衣服は、セレブな人々がいつもよりおしゃれした姿であることがわかってきました。

残念なことに、^{しよ}庶民を表す埴輪は、左の絵のような埴輪で、日常着や庶民の衣服は、まだ、謎の中です。どうやら埴輪さんはショックを受けてしまったようですね。

みなさん、どうぞ、埴輪さんのために、着ていたものを考えてあげてください。埋文センターだって考えますよ～



の衣食住

古墳時代の「食」

古墳時代の食物は、前の弥生時代とあまり変わらないと考えられています。弥生時代と古墳時代では、世の中のしくみには大きな違いがありますが、縄文時代と弥生時代のように食料や生活の違いで区別される時代ではありません。栽培した穀物（イネ、オオムギ、コムギなど）や果物などと、狩猟した動物（シカ・イノシシ・キジなど）があることが知られています。

古墳時代後半期の東日本では、穀物は蒸して「おこわ」として食べることがさかんに行われました。この写真はそのための蒸し器で、「こしき」（甗）と呼ばれます。穴の開いた土器に、ザルや編み物を入れて、その上に穀物を載せたと考えられますので、編

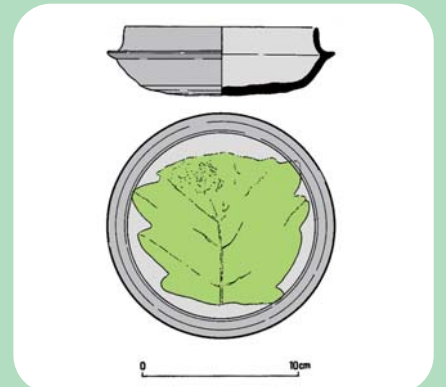
み物を復元して入れてみました。沸騰した甗（現代のナベに相当）に載せて使います。宇都宮市中島笹塚遺跡1区の出土品。



（下からみたようす）



古墳時代後期の住居跡から出土したお米。おそらく火事などの事故により、炭になってしまっています。宇都宮市立野遺跡（5区SI-4）の出土品。



一人一人が使う食器は、古墳時代の前半では「高杯」（脚付きのお碗）、後半では上のような「杯」を主に使います。蓋を被せて出土した杯では、木の葉を敷いて食物を盛ったあとを残すものが知られています（岡山県大開3号墳出土品）。

モモ

クルミ



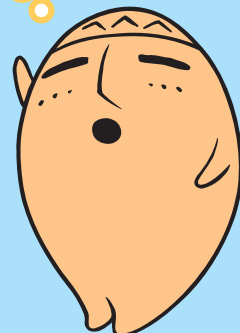
「おこわ」と「豆」

栃木県で古墳時代の遺跡から発掘調査で見つかった食べ物は、まだ多くありません。それを献立にしてみました。玄米とヒエのおこわ（蒸したご飯）とマメ、それにクルミとモモがあります。ヒエはお米に比べるとおいしくありませんが、米が足りない分を補ったり、災害時の備えとしても頼りになります。佐野市上敷遺跡・岩舟町赤羽根遺跡・野木町清六Ⅵ遺跡・二宮町蟹ヶ入遺跡・壬生町富士前遺跡・宇都宮市砂田A遺跡で出土した食べ物から復元しました。骨などの証拠はまだ出土していませんが、この他に魚や肉、それから汁物があったと考えられます。群馬県の山間部（渋川市黒井峯遺跡）ではハマグリが出土した例もあり、海産物の加工食品も運ばれてきたことでしょう。

2006年 発掘現場 レポート



県内の各地で
発掘しています。



県内の発掘調査している現場から、最新の情報をご紹介します。
発掘現場を見かけたらどうぞ声を掛けてください。

■は表紙P1、P6に記事を掲載した菅田古墳群(足利市)です。

1 おかのうち 岡ノ内遺跡 (那須烏山市)



古墳時代住居跡のカマド

この遺跡は、もともと平安時代から中世の遺跡として知られていました。今回、県道宇都宮烏山線の道路工事に伴い、遺跡の一部が調査されることとなりました。この調査では、古墳時代の住居跡3軒と平安時代の住居跡2軒、近世墓3基、溝1条、その他土坑や小穴が確認されました。調査区の畑は以前、ゴボウの作付を行っていました。そのため、遺構も縞状に深く削られており、残っている部分で遺構の形を推定しながらの調査となりました。

写真のカマドは、両側が削られていますが、石と粘土でしっかりとつくられており、かけ口には煮炊きに使われる甕がかかった状態で出土しました。カマドに使われた石は、遺跡の立地する段丘の下を流れる荒川でとれる凝灰岩、通称「荒川石」と呼ばれるもので、この石を使うのがこの地域の特徴のようです。

2 こだてさんたんだ 古館・三反田遺跡 (那珂川町)

古館・三反田遺跡は、馬頭市街地から南東へ約1km、武茂川と矢又川の合流点から東側に広がる段丘上にあります。この遺跡は戦前から多量の縄文土器(中期～後期を主体)や石器(打製石斧、石鏃、石皿等)、石製品(石棒、独鈷石、硬玉製大珠)が採集されており縄文時代の大きなムラとして県内外に広く知られています。今年6月から国道293号馬頭バイパス建設に先立って遺跡南東端を調査していますが、今回調査範囲では縄文時代の遺構・遺物が少ないこと、古墳時代後期～平安時代の竪穴住居跡が24軒あることがわかりました。また併せて、中世の遺物(青磁破片、火鉢破片、五輪塔の地輪部分)や柱穴跡・長方形土坑なども発見されています。よく「地名は歴史の証人」と言いますが、遺跡のある字名「古館(こだて)」が示すように、この付近に「古(ふる)い」「館(やかた)」跡があったようです。だとしたら武茂城跡(中世氏族・武茂氏の拠点。馬頭市街地の北側丘陵に所在)との関係は? いろいろと興味がつきません。



遺跡調査風景(西から)

3

た じま もち ぶね 田島持舟遺跡 (足利市)

田島持舟遺跡は北関東自動車道路の建設に伴って調査しています。今までの調査で田島持舟遺跡には弥生時代から中近世まで長期にわたって人々が生活していたことが分かってきています。

今年度は住居跡などとともに古墳の調査を行っています。この古墳の発見はまさに「サプライズ」。調査前、古墳周辺は竹林だったために墳丘の存在を把握できず、上の土を除去してもしばらく認識できませんでした。ただ大きめな石の頭が見え隠れしていました。そこで丁寧に土を掘ってみると……。きれいに小石が敷き詰められて、東側の側壁となる大きな石も出てきました。残念ながら天井や奥壁、西側の側壁を構成していた石はなくなっていました。遺物はほとんどありませんが、この横穴式石室は7世紀はじめごろと思われます。

また今年度出土した注目の遺物としては「土製六鈴鏡」があります。発見されたときはその形がから「かめが出た～」との声が上がりました。「甕？」それともまさか「亀？」。よく見てみると鈴の付いた鏡を模倣して作られた土製品で、大きさは直径約7cm、厚さ1cmあり鈴の割れている部分も忠実に再現されています。栃木県では3例しか見つかっていない大変貴重なものです。



土製六鈴鏡出土

4

し じゅうはち づか 四十八塚古墳群 (佐野市)

四十八塚古墳群では北関東自動車道建設に先立つ調査が平成17年度から行われています。その結果、遺跡名の由来になったように、かつて、たくさんの古墳があり、中世（鎌倉～室町時代）にも墓地として利用されたことが判明しました。

古墳は今から1400～1500年くらい前の、古墳時代後半に作られたものです。すべて盛り土が削られて失われていましたが、まわりを円形に巡る堀のあとや横穴式石室が発見されました。堀のあとはあまり深いものではないので、水をためることができるものではなく、区画としての視覚上の機能が強いと思われます。堀の埋まった土の中からは葬式に使われた土器が出土しています。中には埴輪の破片が発見されたものもあります。そのような埴輪はもともと古墳の頂上や裾に立て並べられていたものが転落して埋まったものと考えられます。横穴式石室は石室内がかなり狭く、遺体を安置するだけで精一杯です。中から鉄刀や鉄の矢じりなどが出土しています。

中世（鎌倉～室町時代）のものは、墳墓とそれにもなう施設が発見されています。中には人骨が残っていた墓穴もあります。人骨の並び方から、手足を折り曲げて仰向けに埋葬されたと考えられます。



遺跡遠景 (東上空から)



中世人骨出土状況(南から)

現地

「菅田古墳群の説明会が行われました」

さる7月29日(土)に菅田古墳群で発掘調査現地説明会が開かれました。当日は猛暑の中、約200名の方々が参加され、遺跡及び北関東自動車道の概要の説明後、4班に分かれそれぞれ担当者から古墳や掘り出された遺物の説明を受けました。また今回は西側に隣接する田島持舟遺跡についても見学をしていただきました。



急斜面にもかかわらず古墳の石室の様子を真剣に見ています。



参加者の皆さんは出土遺物の説明を真剣に聞いています。

社会科見学 や 職場体験 もやっています



栃木県埋蔵文化財センターでは、学校教育との連携のため、センター見学や体験講座などを行っています。今年も小学生から高校生のみなさんがたくさんきてくれました。初めて見る本物の土器にびっくりしたり、そして職員の説明を聞きながら古代の生活を想像したり、実際に土器に触れてみたり、埋蔵文化財センターにはたくさん感動があります。



Information

埋蔵文化財センターは、1時間位で見学ができます。2時間位で各種体験講座を受けることができます。体験講座はこれまで(例)のようなものを行いましたが、この他学校のご要望に応じた内容も考えております。ご希望・ご質問など気軽に問い合わせください。

体験講座(例)

- 縄文土器の文様のつけ方
- 火起こし体験

お気軽に
お問い合わせください
お待ちしております



普及事業部 TEL.0285-44-8441(代)

栃木県埋蔵文化財センターでの研修を通して

栃木県教育委員会の研修には、教職10年目にあたる教員が社会体験をする研修があります。この夏は4名の先生方が埋蔵文化財センターで研修を受けられました。今回は、その研修の体験記を紹介します。

埋蔵文化財センターでの体験

真岡市立真岡小学校教諭 泉水 史英



埋蔵文化財センターでの研修を通して、本県の文化財の調査・保護に埋蔵文化財センターが大きな役割を果たしていることを知りました。また、遺跡の発掘・整理には長い時間と労力を費やしていることを実感しました。時間をかけていねいに作業している職員の方々の地道な努力があって、発掘や整理作業が成り立っていることが分かりました。

今回の体験は、自分が知らなかったことを数多く知ただけでなく、体験することで苦労や喜びを実感できました。埋蔵文化財センターの職員の方々には心より感謝いたします。今後は、この経験を子どもたちに還元できるようにしていきたいです。

実物に触れる感動

栃木県立小山高等学校教諭 宮井 浩司

私が感激したことは、縄文土器などを直接手に持つことができたことです。「何千年も前に、この土器を実際に使っていた人々がいたのだな」と思うと、不思議な感慨が心にわき起こりました。センターの方々が行っている洗浄や注記なども体験することができ、小さな遺物がまるで命を吹き返したような親しみをもつことができました。これも、発掘にたずさわる多くの方々の努力のおかげであることを、後日の四十八塚遺跡発掘体験で改めて実感しました。

土器作りでは、専門外の私でも楽しく歴史理解を深めることができ、とても有意義な研修でした。



四十八塚古墳群での発掘調査体験

佐野市立田沼東中学校教諭 関口 紀代子

研修3日目に、発掘調査体験をさせていただきました。体験前に、遺跡の説明をしていただき、遺構や遺物を目の当たりにし、確かにここで昔の人々が生活していたのだと、感慨深いものがありました。そして、遺構を掘り進めていく中で、小さな土器片がひとつ出土しました。本物に触れたときのあの感動は忘れられません。

この遺跡調査は北関東自動車道とそれに付随するパークングの建設に先だつてのものとなりました。過去と未来が交錯するこの地での研修は大変貴重な体験となりました。



埋蔵文化財センターにおける体験を通して

佐野市立田沼東中学校教諭 石田 英男



センターにおける研修では、落ち着いた雰囲気の中で、専門分野ごとに職員の方々、埋蔵文化財の調査研究・保存を行う姿を見させていただきました。また、古代の人々の生活を想像しながら、実際の文化財に触れたり、土器作りを体験することで、古代に思いを馳せながら、浪漫を感じることができました。現在、センターの活動を県全体に普及させようというねらいのもと、活動に取り組みされていると聞き、その姿勢に感銘を受けました。センターの職員の方々、教員としての自己の在り方を考えさせられる貴重な体験となりました。

発掘調査現場の安全対策

-菅田古墳群での実践-

現在、埋蔵文化財センターでは、北関東自動車道の建設・道路改良工事（バイパス建設等）・圃場整備事業・ダム建設等の各種開発事業に伴う発掘調査を、県内各地で実施しております。

発掘調査を実際に見学したり、またテレビ等のニュースを視聴された方は、手シャベル、刷毛などを使い、少しずつ土器や石器を掘り出すことが主な作業のようにイメージされているのではないかと思います。しかし、これらの作業は発掘調査のある一面を物語っています。

発掘調査現場では、センター職員の指示に基づき、多人数の発掘作業員さんが働いていると同時に、バックホー（表土除去用）・ブルドーザー（表土除去用）・クローラダンプ（表土運搬用）などの各種重機も同時並行で稼働しております。重機類の使用は、発掘調査の効率を上げるためにも必要な措置です。

これらの重機から作業員の安全を図り、調査を迅速に進めることが考慮されなければなりません。このため、作業開始前に重機の稼働範囲に近づかない、体調がすぐれない場合はすぐに申し出ることなど多岐にわたる諸注意を毎日の様に伝えております。

発掘調査現場は、必ずしも平坦面だけで実施されているわけではなく、緩斜面、急斜面、丘陵及び尾根の上など条件も異なります。

今回は、北関東自動車道路建設に伴い、足利市菅田町内で実施されている菅田古墳群発掘調査現場での安全対策の一端について見てみたいと思います。

古墳群は、尾根が馬の背状に伸びる頂部の僅かな平坦面から斜面にかけて分布しており、そのうちの10基を発掘調査しております。この現場に行くためには約30メートルの急斜面を登らなければなりません。

表土や墳丘の盛り土をクローラダンプで運搬する仮設道路の他、階段を設置し、機械と人間の移動の接点を少なくしております。この階段は、発掘調査地が山林であったため、ナラ・クヌギなどの伐採した木を再利用し、手すりも付いた本格的なものです。

作業員の方々が手作りで作り上げた貴重なものです。手作りですので見た目はよくありませんが、職員を含め自分たちの安全は、自分たちが守る姿勢が強く表れており、感動しているところです。

またこの現場では、尾根状の山林を伐採して発掘調査を実施しているため、地面がむき出しの状態が長期間続くことから、降雨による土や雨水の流失を考え、木柵や土嚢袋による簡易な砂防設備を設置し、尾根下への対応を行っているところです。

発掘現場（他の場所においても同様ですが）における安全管理は、人に言われたから実践するのではなく、そこにいる一人一人が常に周囲を含めて、安全についての意識を持ち続けることが大切であり、安全なくして発掘調査の成果は見込めません。

埋蔵文化財センター 安全衛生管理委員会



手作りの階段と注意標識板

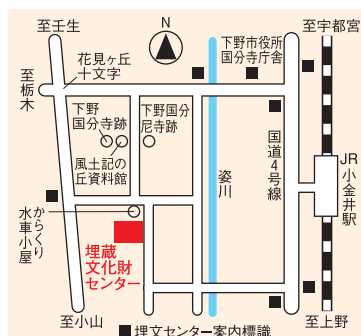
編集後記

今回は、埋蔵文化財センター調査部の発掘現場レポートとともに、学校教育と連携した普及事業について皆さんにお知らせしようと思い編集いたしました。他にも本物の土器などの貸出セットもありますし出前授業もやっています。詳しくはホームページをご覧ください。これからも、埋蔵文化財センターを学校や生涯学習のいろいろな場でご利用いただければと思います。まずは、お電話お待ちしております。

発行 栃木県教育委員会
宇都宮市塙田 1-1-20 TEL.028(623)3425
平成18年10月26日発行

編集 財団法人とちぎ生涯学習文化財団
埋蔵文化財センター
〒329-0418 栃木県下野市紫 474
TEL.0285(44)8441(代) FAX.0285(44)8445
E-mail webmaster@maibun.or.jp
URL http://www.maibun.or.jp/

印刷 ヤマゼン コミュニケーションズ(株)



《埋蔵文化財センターへのご案内》

- JR小金井駅から
約4km、車で約10分
- 東武壬生駅から
約6km、車で約15分
- 東武栃木駅から
約9km、車で約20分